

市民公開講座

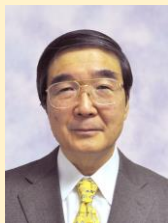
予防・治療から社会復帰へのケア ～最近の進歩～

平成27年度 第2回 「胃がん」

開催日時: 9/13(日) 13:30～15:30 会場: 森ノ宮医療大学
(13:00 受付開始)

基調講演

■ 胃がん手術周術期から社会復帰へのケア —最近の話題—



大阪府立急性期・総合医療センター
副院長
森ノ宮医療大学 客員教授
岩瀬 和裕

近年の進歩により胃がんの多くが治る病気になりつつあります。腹腔鏡下手術など、より侵襲の少ない治療法の選択肢も広がりがつつあります。最近では、より良い社会復帰状態が求められるようになっていきます。胃がん手術後にまつわる最近の話題を紹介します。

司会



森ノ宮医療大学
学長 荻原 俊男

講演 I

■ 胃がんの手術と看護



森ノ宮医療大学保健医療学部 看護学科教授 吉村 弥須子

胃を切除すると、今までのように食事ができなくなります。食べる量が減った、食べるとお腹が痛くなる、体重が増えないなど、何らかの症状を経験される方が半数以上いらっしゃいます。そこで、日常生活における食事の工夫や症状の対処法などについてお話しします。

講演 II

■ 消化器がん 予防と運動



森ノ宮医療大学保健医療学部 理学療法学科准教授 三木屋良輔

がんの発生原因には喫煙、飲酒、塩分、身体活動、肥満度の5つの要因が国内外で認められています。よって、がんを予防するには上記の5つの要因を改善する必要があります。今回は、肥満度を解消し、理想とされる身体活動を実践するための運動についてお話しします。

講演 III

■ がん治療と鍼治療



森ノ宮医療大学保健医療学部 鍼灸学科教授 仲西 宏元

がん患者の苦痛は、体の痛みや痛みによる日常生活動作の支障などの身体的苦痛、精神不安やイライラや不眠からくる精神的苦痛、仕事や経済的問題などの社会的苦痛、死生観に対する悩みなどのスピリチュアルな苦痛が相互に関連している全人的苦痛であります。鍼灸治療の役割について、全人的苦痛、特に身体的・精神的苦痛への可能性についてお話しします。

入場無料 (定員 100 名)

事前の申込は不要です。当日、直接会場にお越しください。(定員に達した場合は入場を締め切らせていただきますのでご了承ください)



森ノ宮医療大学は大阪市健康増進計画「すこやか大阪21」の趣旨に賛同し、「すこやかパートナー」として活動しています。



大阪市営地下鉄中央線「コスモスクエア駅」
②番出口より徒歩1分(南へ約90m)



想いのすべてを、医療の力に。



森ノ宮医療大学

保健医療学部 鍼灸学科 理学療法学科 看護学科
大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 修士課程